

## くまびょう

135号

NEWS

くまびょう  
NEWS2008年  
9月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501(代)

FAX (096) 325-2519

## 救命救急センターよりご報告(救急科標榜さる)

40年前の昭和43年7月、山田政信院長、川越寿副院長の時代に国立熊本病院救急医療センターが開設されました。世の中は東京オリンピック、東海道新幹線開通、東名高速道路開通に伴う高度経済成長期でありましたが、その反面、交通事故が急増、1年間に4機の旅客機墜落事故等を背景として、当時30周年を迎えた厚生省が救急医療体制の構築に力を入れた時期でした。開設当時は主に循環器科の原口義邦先生、谷口正信先生、古賀毅先生方が中心となってご尽力され、谷口先生の叔父にあたる、当時の園田直厚生大臣も激励に訪院されたと伺っております。原口先生のお話によると、当時搬送される患者さんは、ほぼ100%脳卒中の患者さんであり、心筋梗塞という病気はまだ日本では珍しく、狭心症患者さんでも年に数名程度だったそうです。その後多くの先輩方に支えられ、2003年8月、宮崎久義院長、池井聰副院長(現院長)の時代に、救命救急センターの認可を受けることが出来ました。

今般、全国的に救急医が不足し厳しい状況にもかかわらず、当院では本年度3名の専修医を救命救急部に迎え入れることができました。また2月の医療法改正により8月より救急科を標榜することが認可され、更に、来年9月には病院新築に伴い、広くて設備の整っ

た救命救急センターが完成致します。40年間の伝統ある救命医療をさらに発展させ、更に質の高い救急医療、信頼される救急医療を提供出来るよう職員一同一丸となって努力して行きたいと思っております。今後ともご支援の程宜しくお願い致します。

最後に、来る9月24日(水曜日)午後6時30分より地域医療研修センターにおいて開催される第93回救急症例検討会に、久留米大学医学部救急医学講座教授坂本照夫先生をお迎えし、「ドクターヘリによる救急医療の現状と課題」という演題でご講演頂きます。多数のご参加をお待ちしております。

(救命救急部長 高橋 毅)



## 第25回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会開催のお知らせ

先生方はもとより看護部門、事務部門、MSWなど多数のご参加をお待ち申し上げます。

日 時 2008年9月22日(月)19時~21時

場 所 くまもと県民交流館パレア(鶴屋東館10階) TEL 096-355-4300(代)

内 容 1. 開放型病院連絡会総会(10階 パレアホール)

1) 臨床トピックス紹介

①精神科救急について

②大動脈疾患に対するステントグラフト内挿術について

2) 新病院建設進捗状況報告

2. 意見交換会(7階 鶴屋ホール) 会費2,000円は、当日受付で申し受けます。

【参加申込先】国立病院機構熊本医療センター管理課(担当:西田、牧野) TEL 096-353-6501(内線390)

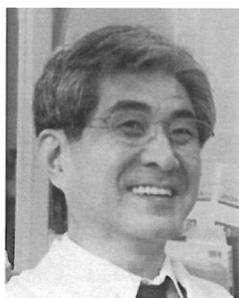


## 熊病から熊本医療センターへ

医療法人勾坂会

サキサカ病院

院長 勾坂 正明



サキサカ病院は、熊本中央郵便局の近くにあり、熊本医療センターや交通センターから徒歩7分の新町にある医療療養病床59床の老人慢性期が主体の病院です。

現在新町、横手周辺は高齢化が進み、独居老人が多くなってきました。当院に通院又は入院されている患者様方も、いつ何が起こってもおかしくない患者様が増加してきています。そうした中で、熊本医療センター、いや私にとっては熊病と言った方が早

いのですが、通院の患者様に異常があると熊病を紹介します。又、入院されている患者様方が転倒骨折や消化管下血やふらつき、意識障害があると熊病に送って精査及び治療をしてもらい、その後当院に再入院される患者様が増えてきました。

当院にても癌末期の患者様がだんだん増えており、終末期の医療も積極的に行っています。これからの医療療養病床は、以前と違ってだんだん重症化していく傾向にあり、気管切開患者の管理、経管栄養患者の管理、COPD患者への酸素投与、褥瘡予防の為のエアーマット及びマキシママットレスの使用、褥瘡に対する処置等、医師、看護師、ケアワーカー一体となつてのチーム医療が必要になってきます。その為にも現在熊本医療センター地域医療研修センターで行われる研修会は当院の職員にとって大変重要なものであり、できるだけ出席させてもらっています。

現在厚労省は療養病床の削減を言っていますが、熊本市西部には医療療養病床は少なく、熊本医療センターとの病病連携はますます重要になってきていると思います。幸い熊本医療センターの新築が始まっていて、平成21年10月には開院との事で、急な坂を登らなくてよくなり、エレベーターで病棟までいけると聞いています。病院も新しくなり今後色々な科の先生とのより一層の連携が必要です。今後とも宜しくお願いします。

## 平成20年度第1回 熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告

平成20年度第1回開放型病院連絡会を前にして去る8月11日(月)、熊本市歯科医師会と国立病院機構熊本医療センターとの協議会が熊本県歯科医師会館にて開催されました。

市歯科医師会からは古賀会長、藤波副会長、清村専務理事、田中理事、宮本医療管理委員長が出席され、当院からは池井院長、河野副院長、片淵地域医療連携室長、高橋救急部長、児玉歯科口腔外科医長が出席しました。

池井院長、古賀会長の挨拶の後、議事に入りました。まず、児玉から4ヶ月経過した本年度の歯科紹介率について、月平均で41.8%と順調に伸びていることを報告し、歯科医師会の御協力に感謝の意を伝えました。

次いで、高橋救命救急部長より本院歯科口腔外科救急症例についての報告があり、症例数では前年度と変わりがないが、外傷症例が目立って増加してきているとのことでした。また、最近、入れ歯の呑み込みが増

加してきており、これには認知症の増加が関係しているのではないかと報告がありました。

続いて、田中理事より、11月13日に開催される救急蘇生講習会の受講者は110名前後になることが報告されました。また、会場となる現在の研修センターは新病院建設のため手狭になっているので実習場所を教育研修棟も追加することになりました。

9月22日に開催される平成20年度第1回開放型病院連絡会については河野副院長より報告があり、総会では恒例の症例呈示と新病院建築状況報告があり、その後懇親会が予定されていることが伝えられました。

最後に前年度より当病院研修センターで行われている口腔ケア研修会について本年度は10月29日に開催することを確認して閉会となりました。この口腔ケア研究会は開放型連絡とともに医科と歯科との連携を深めていく起点にしたいと考えています。

(歯科・口腔外科医長 児玉 罔昭)

2008

## 診療科紹介(4)

総合医療センター(4)

呼吸器内科(呼吸器センター)



森山 英士

呼吸器一般、内科、救急医療

日本臨床腫瘍学会暫定指導医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医



柏原 光介

呼吸器一般、内科、救急医療

日本内科学会認定医

日本呼吸器学会専門医

日本呼吸器学会指導医

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医

日本呼吸器内視鏡学会指導医

日本感染症学会ICD

日本臨床腫瘍学会暫定指導医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医



岡本 知久

呼吸器一般、内科、救急医療

## 診療内容と特色

久留米大学からの派遣医師であった森松嘉孝先生と田尻守拓先生の退職に伴い、平成20年4月1日より熊本大学呼吸器内科から柏原、森山、岡本の3名で赴任致しました。

当院は年間8,500台を越える救急車が来院する救命救急センターを有し、また「紹介患者を断らない医療機関」として地域に浸透し開業の先生方や老健施設からの紹介患者も多いことから、急性期から慢性期、軽症から重症の多種多様な呼吸器疾患を診療しております。

## 診療実績

平成19年度の診療実績として、呼吸器内科の年間外来患者数は1,022名で、紹介患者が80.9%を占めています。また入院患者数は年間602名、平均在院日数は11.4日と典型的な急性期病院です。特に入院患者の約40%が救急外来を経て入院される急性期疾患であり、主に高齢者社会を反映して嚥下性肺炎や急性呼吸不全の症例が多いのが特徴です。また当院は精神救急を行っ

ている県下唯一の救急医療機関であることから一般病棟での管理が困難な患者様も、精神科医師と共同して積極的に内科的治療を行っております。

## 研究実績

赴任して半年ですので明確な研究実績はありません。肺癌に関しては九州肺癌臨床研究機構（LOGIK）や西日本がん研究機構（WJOG）に所属して臨床治験への参加のための土台作りを行っています。また熊本大学呼吸器内科を中心とした臨床研究のネットワークに積極的に参加していく予定です。

## ご案内

呼吸器内科外来（午前8時30分～11時が受付）は、月曜日と木曜日は柏原、火曜日と金曜日は森山、水曜日は岡本が担当しております。また、毎月第3月曜日には開業の先生方と一緒に症例検討会、「月曜会」を当院研修センターにて開催しております。それぞれの立場で議論が交わされます。

## ■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょう NEWS』編集室まで

## 最近のトピックス

### 進歩する多発性骨髄腫の治療



血液・膠原病内科医長

日高道弘

多発性骨髄腫は主に60歳以降に発症する血液のがんです。骨髄中に存在する形質細胞が悪性化することにより特徴的な単クローン性高 $\gamma$ グロブリン血症を示し貧血、骨病変、腎障害、易感染性などの症状をきたします。進行は通常緩徐ですが、治療を行っても治癒することは極めて稀です。治療として1960年代からメルファラン・プレドニゾン併用療法（MP療法）が行われており現在でも有力な標準療法の1つです。その後様々な抗がん剤が登場しましたが、長くこの治療を超える治療がありませんでした。またMP療法に治療抵抗性となった場合にも、それに続く抗腫瘍効果を期待できる治療はありませんでした。

10年ほど前から自己末梢血幹細胞移植を併用した大量化学療法が導入され、無病生存期間を延長させることがわかってきました。大量化学療法が行える比較的若い患者には標準療法として行われています。またサリドマイドも有効であることが判明しています。日本ではまだ薬剤としての認可が下りていないため、主に再発難治例に対して使用され約3割程度の方に効果が認められるようです。

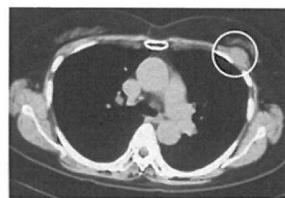
最近になって治療として選択できるようになってきたものにボルテゾミブがあります。この薬剤は従来の

抗がん剤とは異なる分子標的治療薬であり、細胞中のプロテアソームを阻害することにより骨髄腫細胞の増殖を抑えます。標準療法の1つである大量デキサメサゾン療法とのランダム化比較試験において有意差を持って有効性が示されており、本邦では2007年12月より再発難治例に対して使用されています。副作用として発熱、消化器症状、骨髄抑制、末梢神経症状があります。ごく稀に間質性肺炎が出現するため初回治療は入院が原則です。そのほか骨に病変を認める場合にはビスホスホネート製剤が有効です。破骨細胞による骨の破壊を押さえると同時に、損傷した骨の表面を修復し骨の密度と強度を改善します。また骨痛にも効果があるようです。

今後サリドマイドの誘導体のレナリドマイドが使用可能となることが予想されます。以上のように最近の骨髄腫治療の進歩にはめざましいものがあります。治療法の選択肢が広がったことでさらなる予後の改善が期待できます。

#### 左胸壁腫瘤

ボルテゾミブ投与前



ボルテゾミブ投与後



#### 左腰部腫瘤

ボルテゾミブ投与前



ボルテゾミブ投与後



ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.hosp.go.jp/~knh/>

## 専修医レポート



専修医  
楠本 優

新臨床研修制度の1期生として当院で初期研修を始めて5年目になりました。各診療科の先生方には小児科医として、また救急外来からの診察依頼でも大変お世話になって（多々ご迷惑もおかけして）います。各医療機関の先生方におかれましては、診療を通じてご指導いただき誠にありがとうございます。

日本小児科学会入会ののち、18年4月から専修医（後期研修医）として小児科に在籍のうえ、高木一孝部長・森永信吾医長・緒方美佳先生に指導を受けています。熊本では基幹病院ごとに小児科診療の特色がありますが、当院では一般診療、血液・免疫疾患の診療そして骨髄移植を行っています。緒方先生は小児アレルギーがご専門です。専門外来・入院治療、また食物アレルギーに対して食物負荷試験を行っています。

救命救急センター外来の時間外診療を全科の医師で対応していますが、心得だけでもと考え、主に救急医療に関する講習・研修を受ける機会がありました（※）。

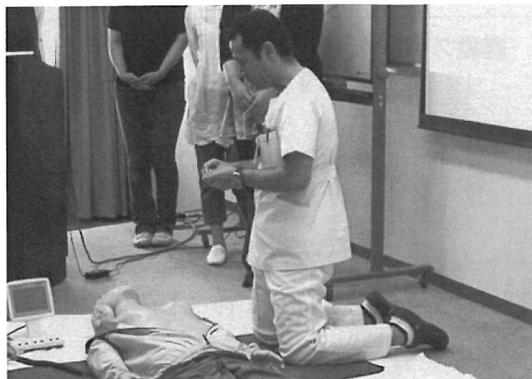
これらは短期間に基本技術を習得するもので、専門の先生方のご経験ご実績によってかわるものではありませんが、その後も実践にいかせるよう質を維持することが大事だと考えています。また院内の救急蘇生法講習でCPRを実演する機会がありましたが、責任をもって教えることはなかなか難しいものだと感じました。当院ホームページでも初期～後期研修で得られる学習の機会をご紹介します。今後も多くの方が人材として集まり、育つような病院であってほしいと思います。

※主なもの

AHA-PALS(Pediatric Advanced Life Support)  
プロバイダー

ITLS(International Trauma Life Support)  
-Pediatric プロバイダー

国立病院機構災害医療従事者研修（国立病院機構災害医療センター）など



救急蘇生法講座の様相

## 平成21年度 専修医（後期臨床研修医）を募集します

応募資格：2009年3月31日までに臨床研修を終了する見込みの者または2年間の初期臨床研修終了者

研修期間：3年間（希望により5年間）

研修内容：幅広い臨床能力と高い専門性を持つ臨床専門医を育成します。

希望者は研修期間中にナショナルセンター（国立高度専門医療施設）や他の国立病院機構病院、大学病院との交流研修を行うことができます。

また、希望者は選考により米国Veterans Hospitalへの海外留学が可能です。

内科系総合専修コース：主に内分泌・代謝、血液・膠原病、腎臓、神経、循環器、消化器、呼吸器、精神、小児、放射線、病理、救命救急から複数のプログラムを選択します。

外科系総合専修コース：消化器、呼吸器、乳腺、心臓血管、骨・運動器、脳、眼、耳鼻、皮膚、形成、女性疾患、泌尿器、麻酔、放射線、病理、救命救急から複数のプログラムを選択します。

研修終了後の資格について：関連学会の専門医の取得が可能です。また国立病院機構の専修医認定証が授与されます。

募集人員：内科系総合専修コース・外科系総合専修コース各若干名

給与：当院規定による

宿舎：レジデントハウス（25㎡）平成21年3月完成予定

選考方法：書類審査、面接等

願書締切：一次 平成20年11月21日（金） 二次 平成21年1月31日（金）

応募される方は事前に下記までお問い合わせ下さい。

〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 事務部管理課給与係長 鶴見

TEL096-353-6501（代）内線621 FAX096-325-2519

詳細についてはホームページをご覧ください。http://www.hosp.go.jp/~knh

# 第1回 熊本EBMセミナーのお知らせ

Evidence-Based Medicine (EBM) は、1990年代にカナダで生まれた概念で、目の前の患者に、現在得られる最高の医学的根拠を、良心的に、且つ、賢明に使用しようというものです。しかし、我が国では、EBMを実践するための系統的な教育システムが確立しておらず、まだ普及していないのが現状です。EBMに対して「医療費削減のための手段である」「医師の裁量権を侵害するものである」などの誤解も多くみられます。しかし、本来、EBMの考えは、国の医療行政とは無関係の総合内科医の手で作られたものであり、決して医師の手足を束縛するために作られたものではありません。

このような現状を踏まえて、国立病院機構熊本医療センターでは、臨床医または医学生を対象に熊本

EBMセミナーを開催致します。これは、5回の講義を受けることにより、EBMの概念および実施手順を理解し、実践できるようになることを目標としています。きっとEBMのすばらしさを実感して頂けると思いますので、ぜひご出席ください。

なお、講義の資料の関係上、外部の参加者の定員は各講義30名とさせていただきます。受講を希望される方は、事前に事務局にメールで登録をお願い致します。

(臨床研究部長 芳賀 克夫)

## 熊本EBMセミナー事務局

メールアドレス scott@kumamoto2.hosp.go.jp

事前登録時は、以下の項目を明記して下さい。①所属、②役職(学生の場合は学年)、③氏名、④連絡メールアドレス、⑤参加希望の講義((1)~(5)から選択)

### 講義スケジュール

- (1) 平成20年9月13日(土) 10:00~12:00 (場所 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター)  
国立病院機構熊本医療センター臨床研究部長 芳賀 克夫先生  
「EBM実践のための手順(1) -問題の定式化、質の高い情報収集」
- (2) 平成20年10月11日(土) 10:00~12:00 (場所 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター)  
社)地域医療振興協会地域医療振興センター 名郷 直樹先生  
「EBM実践のための手順(2) -情報の批判的吟味、患者への適用、事後評価」
- (3) 平成20年11月1日(土) 10:00~12:00 (場所 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター)  
国立病院機構熊本医療センター臨床研究部長 芳賀 克夫先生  
「臨床データの解析法 -統計ソフトの使用法」
- (4) 平成21年1月10日(土) 10:00~12:00 (場所 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター)  
国立病院機構東京医療センター臨床疫学研究室長 尾藤 誠司先生  
「臨床研究計画の立て方」
- (5) 平成21年2月7日(土) 10:00~12:00 (場所 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター)  
東京医科大学国際医学情報センター教授 J.P.バロン先生  
「英語プレゼンの仕方、英語論文の書き方」

# 第1回 二の丸肝臓談話会のお知らせ

(日本医師会生涯教育講座3単位認定)

- 内 容：1) C型慢性肝炎治療の変遷：地域医療連携の役割(講演)  
2) 地域連携クリティカルパス運用症例の報告  
3) 質疑応答(何でもご相談ください)

日 時：平成20年9月29日(月) 19:30~21:00

場 所：国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

近年、肝疾患患者人口の増加に伴い地域医療連携の重要性が増してきています。当院では平成20年4月よりインターフェロン療法地域連携クリティカルパスを運用し、多くの医療施設との連携が深まりつつあります。この間、多数の施設より顔の見える勉強会のご要望があり、この度「二の丸肝臓談話会」を発足しました。実施診療に根ざした勉強会を目指しています。年4回の例会と、1回の特別講演会を予定しています。まずは第1回のご案内をさせていただきます。

多数のご参加を歓迎します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター消化器科医長 杉 和洋 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

# ■ 研修のご案内 ■

## 第225回 初期治療講座 (会員制)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]  
[日本内科学会認定内科医更新のための2単位認定]

日時▶平成20年9月6日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 「持続する発熱の診療」

座長 玉名郡市医師会 紫藤 忠博

#### 1. 敗血症「細菌性心内膜炎について」

国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 宮尾 雄治

#### 2. 膠原病について

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科 河北 敏郎

#### 3. 発熱をともなう悪性疾患について

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター血液・膠原病内科医長 武本 重毅

#### 4. 検査の進め方

国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

## 第116回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶平成20年9月8日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

#### 1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長 柏原 光介

#### 2. 持ち込み症例の検討

#### 3. 消化器症例呈示

国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科 佐藤有紀子

#### 4. トピックス「心腎相関」

国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科医長 宮尾 雄治

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線写真、心電図等がございましたら、ご持参下さいますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

## 第85回 三木会 (無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成20年9月18日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

#### 1. 糖尿病の栄養指導と当院における栄養指導の現状

国立病院機構熊本医療センター栄養管理室管理栄養士 大山 明子

#### 2. 糖尿病の週末入院クリティカルパスについて

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科医長 豊永 哲至

#### 3. 内分泌・代謝内科の糖尿病治療の実態

国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一郎

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一郎 TEL 096-353-6501(代表) 内線705

## 第93回 救急症例検討会 (無料)

日時▶平成20年9月24日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

### 症例検討「外傷」

国立病院機構熊本医療センター整形外科部長 野村 一俊

国立病院機構熊本医療センター外科部長 片渕 茂

国立病院機構熊本医療センター泌尿器科医長 菊川 浩明

### 特別講演「ドクターヘリによる救急医療の現状と課題」

久留米大学医学部救急医学講座教授 坂本 照夫

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

# 2008年 研修日程表 9月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

9月	研修ホール	教育研修棟 4階	その他
1日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
2日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
4日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
5日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
6日(土)	15:00~18:00 第225回 初期治療講座《会員制》 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 座長 五名郡市医師会 紫藤 忠博 「持続する発熱の診療」 1. 敗血症「細菌性心内膜炎について」 国立病院機構熊本医療センター循環器科医長 宮尾 雄治 2. 膠原病について 国立病院機構熊本医療センター血液・膠原病内科 河北 敏郎 3. 発熱をともなう悪性疾患について 国立病院機構熊本医療センター血液・膠原病内科医長 武本 重毅 4. 検査の進め方 国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志		
8日(月)	19:00~20:30 第116回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
9日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
11日(木)	18:30~20:00 病薬連携研修会		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
12日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
13日(土)	10:00~12:00 第1回 熊本EBMセミナー		
16日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(会) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ
17日(水)	13:00~17:00 日本医療マネジメント学会主催 平成20年度第2回クリティカルパス実践セミナー in熊本[1日目] 18:00~19:30 第54回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会(公開) 9:00~14:30 日本医療マネジメント学会主催 平成20年度第2回クリティカルパス実践セミナー in熊本[2日目]		
18日(木)	19:00~20:45 第85回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
19日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
20日(土)	13:30~16:30 第112回 看護卒後研修《会費制》 「医療遭遇・苦情クレーム対応」 船橋市立医療センター副院長/医療安全管理室長 唐澤 秀治 (※今回は看護学校2階教室で行います)		
22日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
24日(水)	18:30~20:00 第93回 救急症例検討会 症例検討「外傷」 特別講演「ドクターヘリによる救急医療の現状と課題」 久留米大学医学部救急医学講座教授 坂本 照夫		
25日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C 17:30 超音波カンファレンス 心リハ 18~19 代謝内科カンファレンス M
26日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 17~18 救急部カンファレンス C
27日(土)	9:30~16:00 第23回 ナースのための心電図セミナー《会費制》 〈講演〉心電図の基礎 国立病院機構熊本医療センター循環器科医長 宮尾 雄治 各種心疾患における心電図 国立病院機構熊本医療センター循環器科医長 藤本 和輝 不整脈 末藤内科循環器科院長 末藤 久和 〈実習〉心電計の取り扱い方 国立病院機構熊本医療センター循環器科医長 藤本 和輝 国立病院機構熊本医療センター循環器科 古賀 英信 国立病院機構熊本医療センター循環器科 原田 恵実 国立病院機構熊本医療センター循環器科 金澤 尚徳		
29日(月)	19:30~21:00 第1回 二の丸肝臓談話会 [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
30日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(会)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 17:30 消化器疾患カンファレンス 心リハ

(会) 会議室 C 病院本館2階カンファレンス 手術室控室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 M ミーティングルーム 心リハ 心大血管リハビリテーションセンター  
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター  
TEL 096-353-6501(代) 内線263 096-353-3515(直通)